

伊勢市観光振興基本計画推進委員会 平成 29 年度 第二回会議 議事録

日時 : 平成 29 年 7 月 27 日(木) 14:00~16:00

場所 : 伊勢市御園総合支所 会議室 2-4

出席者 (敬称略)

: 委員 富本 (委員長)、三浦、江崎、松本、音羽、南、三村、矢吹、小崎、奥田、
増田、前田、山本 (武)、山本 (直) (17 名中 14 名出席)

: 事務局 東世古、小林、中村、湯浅 (以上、伊勢市役所)
高田、江藤 (以上、アルパック)

1. 開会

(1) 委員長あいさつ

(2) 委員紹介

2. 前回のふりかえり

資料 1 に基づき説明

3. 協議事項

(1) 基本理念について

資料 2 に基づき説明

⇒以下の意見に基づき、次回会議でさらに検討 (議決)

(2) 目標指標について

⇒以下の意見に基づき、次回会議でさらに検討 (議決)

(3) 計画の検証委員について

○伊勢市は満足度等、継続的に調査を行っている。現行計画の検証と並行して取り組んでいく。

今回は、ルールとして委員会に部会を設けて、部会で検証することとなっている。

○事務局案として、今後、伊勢市で観光推進に携わられる方に、地域性を踏まえて候補者を提案。

⇒案のとおり承認 (議決)

4. 報告事項

(1) 観光事業者等意向調査について

資料 3 に基づき説明

(2) ワーキンググループについて

資料 4 に基づき説明

5. その他

- 資料5に基づき説明
- 次回の第3回会議は9月29日(金)14:00~16:00、ハートプラザみそので開催する。

6. 閉会

以下、各委員からの主な意見等を記載する。

●基本理念

【基本理念、16年後のありたい姿、4年後のありたい姿について】

- 人口減少により、観光従事者だけで努力しても限界がある中、伊勢観光は市民力で成立していると感じている。様々な思いを持った来訪者を市民が迎え、案内することで、来訪者の幸せと市民の幸せにつながり、経済も回る伊勢らしい観光になる。
- 16年後のありたい姿としては、現行計画の4年後のありたい姿をそのままスライドして普遍的なものにしてもいい。伊勢ならではのことを宣言するような文言を入れても良い。
- 4年後については、劇的に変わるものではなく、抽象的に書くものでもないため、目標指標で書いても良い。
- 基本理念について、市民が誇りを持つことや伊勢を好きであることを入れたい。
- 基本理念については、伊勢神宮は唯一無二のものであり、式年遷宮を意識したものとしたい。
- 16年後のありたい姿については、伊勢が何か新しくおしゃれなステータスを持っているイメージにしたい。
- 4年後については、オリンピックや国体など具体的な動きがあるため、目標となる指標を入れてはどうか。
- まちの輝きを見に来ていただき、そこに住みたいと思っただくことが、観光の最終目標ではないかと感じている。
- 基本理念については、基本的には変わらない。伊勢らしさの表現として、質素だけれども品格があるまち、などの言葉を作り出してきたが、自分たちで咀嚼して次世代へ受け継ぎ共感を得て、観光交流を行うまちづくりを、「地域学」「伊勢学」として表現できる。
- 基本理念については、神宮が発信したものだけでなく、外部の人や市民が発信した「お伊勢さん」の文化の発掘をすると、伊勢らしさが明確になると感じる。地域ごとの文化をひとつの神宮という文化につなげ、広域で伊勢の文化として捉えられるものを入れたい。
- 県外には常若の精神などは浸透していないため、継続して広報する必要はある。伊勢は観光客も笑顔が絶えない素晴らしい観光地になったと思うが、京都、高山と比べれば外国人の受け入れ態勢は弱い。
- これからの4年は何に特化して、何を成長させていくのか、共通認識を持った方が、計画が立てやすいのではないか。

●目標指標

【事業所数（宿泊施設）】

- 事業所数（宿泊施設）の把握はしているのか。宿泊者の収容力（人数）を目標にした方がいい

いのではないか。

⇒○把握はしているが目標値にはしていない。

【担い手数】

○担い手数という指標は、何をもって担い手とするのか、認定方法を知りたい。

⇒○新しく表彰や認定制度を作って集計する方法と、今ある様々な取り組みに関わる担い手を集計する方法の2つが考えられる。

【満足度】

○現在、訪問者の満足度は高くなっているが、地元に住んでいる方の満足度・幸福度の向上も重要ではないか。

【滞在日数】

○滞在日数はどのように集計するのか。

⇒○平成26年から観光客実態調査で聞いている。今回の旅で何泊したか、その内、伊勢で何泊したかを聞いている。継続してやっている。

○伊勢・二見の宿泊者数は組合に入っているところの集計か。ゲストハウスなど組合に入っていないところが増えている。民泊もでき、今までにない状況となっており、正確な数値を把握できなくなっている。

⇒○主に組合に入っているところの集計である。

○宿泊施設独自に泊数を増やすための取り組みを行っているが、この計画の中には具体的な取り組みを入れるわけではないため、滞在日数は指標として問題があるのではないか。

【参拝者数】

○参拝者数の中に、インバウンド数はあるか。

⇒○神宮参拝者のインバウンド数は把握している。ただし、アジア圏なのかどうかは見た目では判断しており、正確ではない。全体的には好調だが、外国人についてはあまり良くない。その原因は、見分けがつかないことにあるのかもしれない、指標にするのが難しい。

以上